

令和2年度第3回 東広島市環境審議会

【概要版】会議説明資料

日時：令和3年3月24日（水） 10:00～

場所：303会議室

東広島市環境基本計画（現行計画） の概要

- 1 東広島市環境基本計画（現行計画）の取り組みの体系
- 2 現行計画の進行管理
- 3 現行計画の改定

東広島市環境基本計画(現行計画)の概要

1 東広島市環境基本計画(現行計画)の取り組みの体系

「望ましい環境像」の実現に向け、市・市民・事業者の協働の取り組みとして次の体系に沿って進めていきます。

1 豊かな自然と共生した快適に暮らせるまち

- 取り組みの柱1 豊かな自然環境の保全と活用
- 取り組みの柱2 緑あふれる美しい町並みの保全と活用
- 取り組みの柱3 水・水辺環境の保全・向上
- 取り組みの柱4 良好な大気環境等の保全

2 身近な取り組みから地球環境保全に貢献するまち

- 取り組みの柱1 資源循環型社会の形成
- 取り組みの柱2 低炭素社会の形成
- 取り組みの柱3 広域的・国際的取り組みの展開

3 環境を守り・伝える心と活動を育むまち

- 取り組みの柱1 環境教育・環境学習の推進
- 取り組みの柱2 環境情報の充実
- 取り組みの柱3 市民・事業者等の環境保全活動の促進

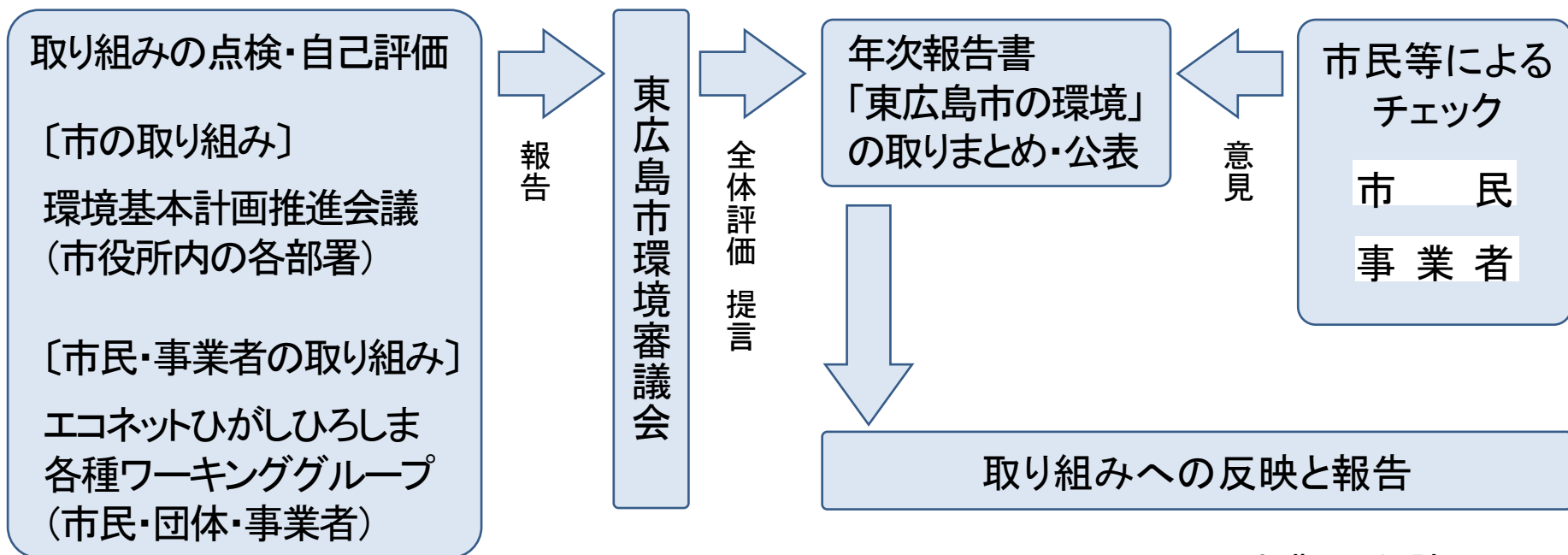
全体の目標像」
市民の一人ひとりがふるさとの環境を
まもりはぐくみつたえるまち

環境基本計画の取組の体系

東広島市環境基本計画(現行計画)の概要

2 現行計画の進行管理

本計画の進行管理は次の手順で実施しています。



出典:現行計画

東広島市環境基本計画(現行計画)の概要

3 現行計画の改定

市の環境施策の基本となる東広島市環境基本計画の計画期間が令和3年度で終了することから、これまでの成果や課題を検証し、第2次計画を策定します。

計画の名称	平成							令和				備考
	24	25	26	27	28	29	30	1	2	3	4	
国 環境基本計画	第4次計画							第5次計画				
広島県 環境基本計画	第3次計画			第4次計画				第5次計画		第5次計画 計画期間 R3～R7		
東広島市 環境基本計画	第1次計画										2次	第1次計画 計画期間 H24～R3
	○	○	○	毎年度の進行管理				○	○	○		第2次計画 計画期間 R4～R13
									基礎 調査	評価 ・ 策定		

現行計画の進捗 (数値目標に対する評価)

- 1 豊かな自然と共生した快適に暮らせるまち
- 2 身近な取り組みから地球環境保全に貢献するまち
- 3 環境を守り・伝える心と活動を育むまち

■現行計画の数値目標に対する評価

達成率100%以上	評価A 予定通り実施できた
達成率90～99%	評価B 概ね予定通り実施できた
達成率50～89%	評価C 予定通りには実施できなかった
達成率49%以下	評価D ほとんど実施できなかった

現行計画の進捗（数値目標に対する評価）

1 豊かな自然と共生した快適に暮らせるまち①

項目	基準年	目標値	実績	備考
自然公園の利用者数	99,376人 (H22年度)	110,000人 (R3年度)	111,030人 (R1年度)	評価A 予定通り実施できた 野外キャンプブームもあり計画期間内に目標を達成した。
歩いて行ける範囲の都市公園等の市街地に対する整備率	66.4% (H20年度)	70% (R3年度)	70% (R1年度)	評価A 予定通り実施できた 計画期間内に目標を達成しているが民間開発任せである。
公園里親制度活用団体数	26団体 (H22年度)	60団体 (R3年度)	79団体 (R1年度)	評価A 予定通り実施できた 計画期間内に目標を達成している。
間伐を実施すべき森林の面積	—	—	11.18ha (R1年度)	評価なし 目標値を設定してないため評価不能
耕作放棄地解消面積	0ha (H22年度)	20ha (R3年度)	4.1ha H24年度～累積値	評価D ほとんど実施できなかった 市補助事業を活用した耕作放棄地解消の実績がなかった。
エコファーマー認定件数	5件 (H22年度)	15件 (R3年度)	2件 (R1年度)	評価D ほとんど実施できなかった 認定更新の条件が厳しいため認定者数が減少している。

現行計画の進捗（数値目標に対する評価）

1 豊かな自然と共生した快適に暮らせるまち②

項目	基準年	目標値	実績	備考
水洗化人口普及率	62.1% (H22年度)	79% (R3年度)	85.4% (R1年度)	評価A 予定通り実施できた 計画期間内に目標を達成した。引き続き、 更に普及率が向上するよう取り組む。
動物基礎調査・水生 生物基礎調査で確認 された種数 (ただし外来生物を除く)	水生植物 77種 (H22年度)	次回調査 時に同種 数以上を 確認	動物(鳥) 167種 植物 127種	評価B 概ね予定通り実施できた 植物に関して、目標をクリアしたが、 調査は継続的なものではないた め、指標を検討する必要がある。
生活環境項目に係る 排水基準のうち、一般 項目の適合率(水質)	80.1% (H22年度)	83% (R3年度)	77.8% (R1年度)	評価B 概ね予定通り実施できた 西条を中心に人口が増加している が水質は現状維持されている。
大気汚染に係る環境基 準項目のうち、二酸化硫 黄、二酸化窒素・浮遊粒 子状物質の適合率	100% (H22年度)	100% (R3年度)	100% (R1年度)	評価A 予定通り実施できた 良好な環境が維持されている。
騒音に係る環境基準 適合率	87.8% (H22年度)	90% (R3年度)	98.9% (R3年度)	評価A 予定通り実施できた H27年度以降、90%以上を達成し ている。

現行計画の進捗（数値目標に対する評価）

2 身近な取り組みから地球環境保全に貢献するまち①

項目	基準年	目標値	実績	備考
市民1人1日当たりのごみ排出量	969g (H22年度)	850g (R3年度)	961g (R1年度)	評価C 予定通りには実施できなかった H27をピークに減少してはいるが、即応性のある施策がなく横ばいが続いている。
きれいなまちづくりキャンペーンの参加者数	15,051人 (H21年度)	16,700人 (R3年度)	12,127人 (R1年度)	評価C 予定通りには実施できなかった 目標人数は達成できなかったが、毎年12,000人～13,000人が参加しており、地域の美化活動に寄与できている。
廃棄物系バイオマスの利用率(下水汚泥)	75% (H22年度)	92% (R3年度)	100% (R1年度)	評価A 予定通り実施できた 各污水处理施設で発生する汚泥の全量(13525.8t)を有機質肥料化した。
未利用バイオマスの利用率	10% (H22年度)	40% (R3年度)	—	評価なし 未利用バイオマスの利用を十分に把握できていなかった。

現行計画の進捗（数値目標に対する評価）

2 身近な取り組みから地球環境保全に貢献するまち②

項目	基準年	目標値	実績	備考
民生家庭部門の二酸化炭素排出量	46.4万t (H22年度)	37.1万t (R3年度)	38.7万t (H28年度)	評価B 概ね予定通り実施できた 新エネ導入の補助や、啓発等により、一定の結果が得られた。
公共施設からの二酸化炭素排出量	27,466t (H25年度)	年1%以上削減	24,812t (R1年度)	評価A 予定通り実施できた 目標達成後も削減は順調に進んでいる。
新エネルギー等の導入 (太陽光発電)	— (H22年度)	2.12 × 10 ⁸ kWh 期待可採量の20%以上	2.65 × 10 ⁸ kWh (R1年度)	評価A 予定通り実施できた 事業用太陽光発電の広まりにより、期待可採量を超える容量の太陽光発電システムが導入された。
新エネルギー等の導入 (中小水力発電)	— (H22年度)	期待可採量の20%以上	1.95 × 10 ⁶ kWh (R1年度)	評価A 予定通り実施できた 計画策定時には想定のなかった福富ダムに発電所が設置された。
「東広島発！ものづくり逸品」の認定を受けた環境関連製品の数	4件 (H22年度)	10件 (R3年度)	8件 (R1年度)	評価B 概ね予定通り実施できた R1年度まで概ね予定通り実施できた。R1年度をもって本認定事業は廃止する。

現行計画の進捗（数値目標に対する評価）

3 環境を守り・伝える心と活動を育むまち①

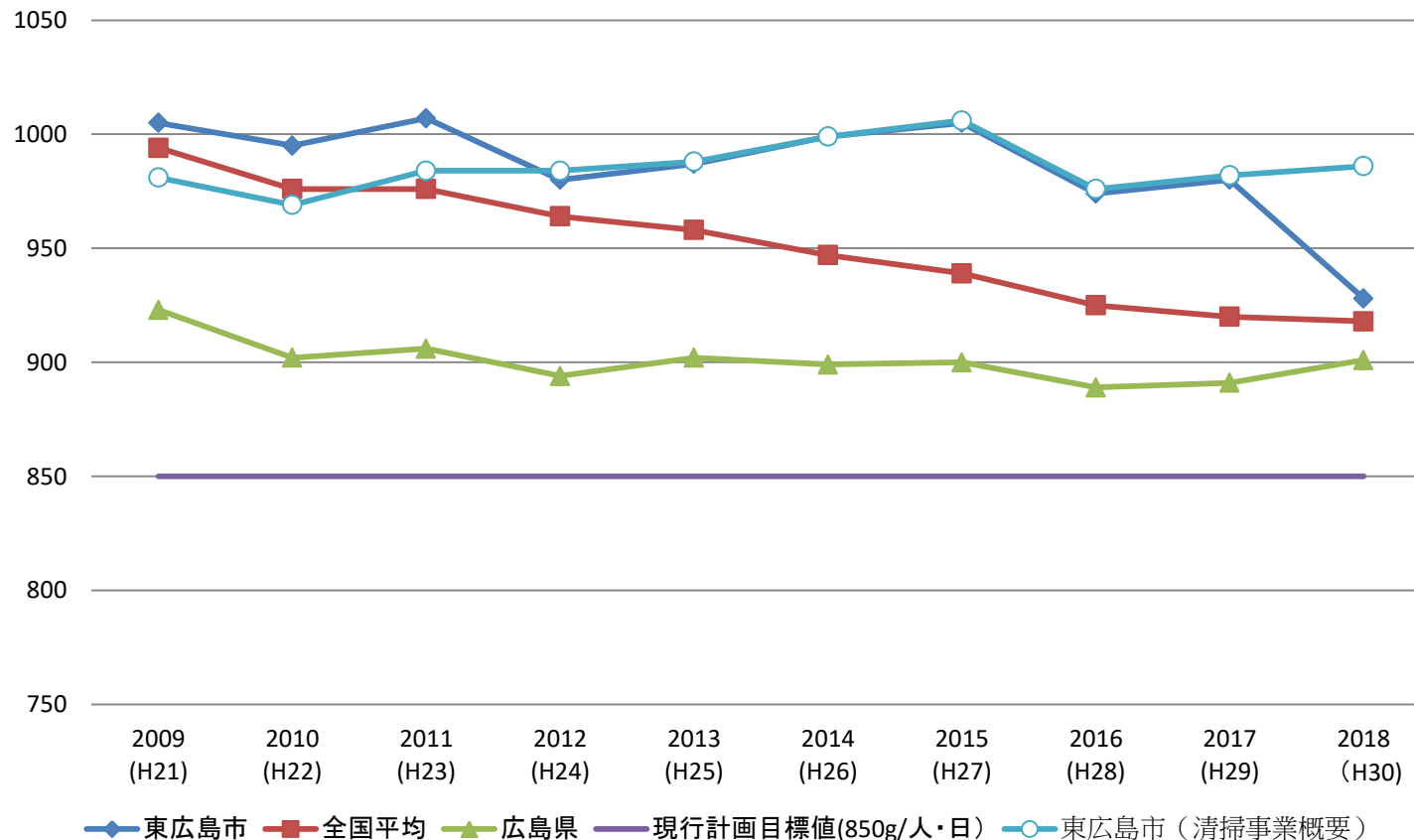
項目	基準年	目標値	実績	備考
環境に関する講師を招いて実施した環境学習の授業時間数	183時間 (H22年度)	246時間 (R3年度)	144時間 (R1年度)	評価C 予定通りには実施できなかった 最大229時間(H27)に達したものの、H30豪雨災害やR1新型コロナの影響で時間数が減少した。
環境に関する出前講座の実施回数	30回 (H22年度)	50回 (R3年度)	64回 (R1年度)	評価A 予定通り実施できた 最大91回(H29)に達したものの、H30豪雨災害やR1新型コロナの影響で時間数が減少した。
市民アンケートにおいて「家庭内で環境問題について話し合いを行っている」と回答した市民の割合	29% (H22年度)	60% (R3年度)	24.4% (R1年度)	評価C 予定通りには実施できなかった 出前講座等を通じて、学んだことを家族と話し合うよう呼びかけているが、成果にはつながらなかった。
市民活動情報サイト（環境eco）の登録団体数	22団体 (H22年度)	47団体 (R3年度)	27団体 (R2年度)	評価C 予定通りには実施できなかった SNSの発展により、Facebook等で情報発信する団体も多く、サイトの利活用が市民に浸透しなかった。

環境基本計画 基礎調査結果

- 1 廃棄物
- 2 温室効果ガス排出量
- 3 生物多様性

環境基本計画基礎調査結果（廃棄物）

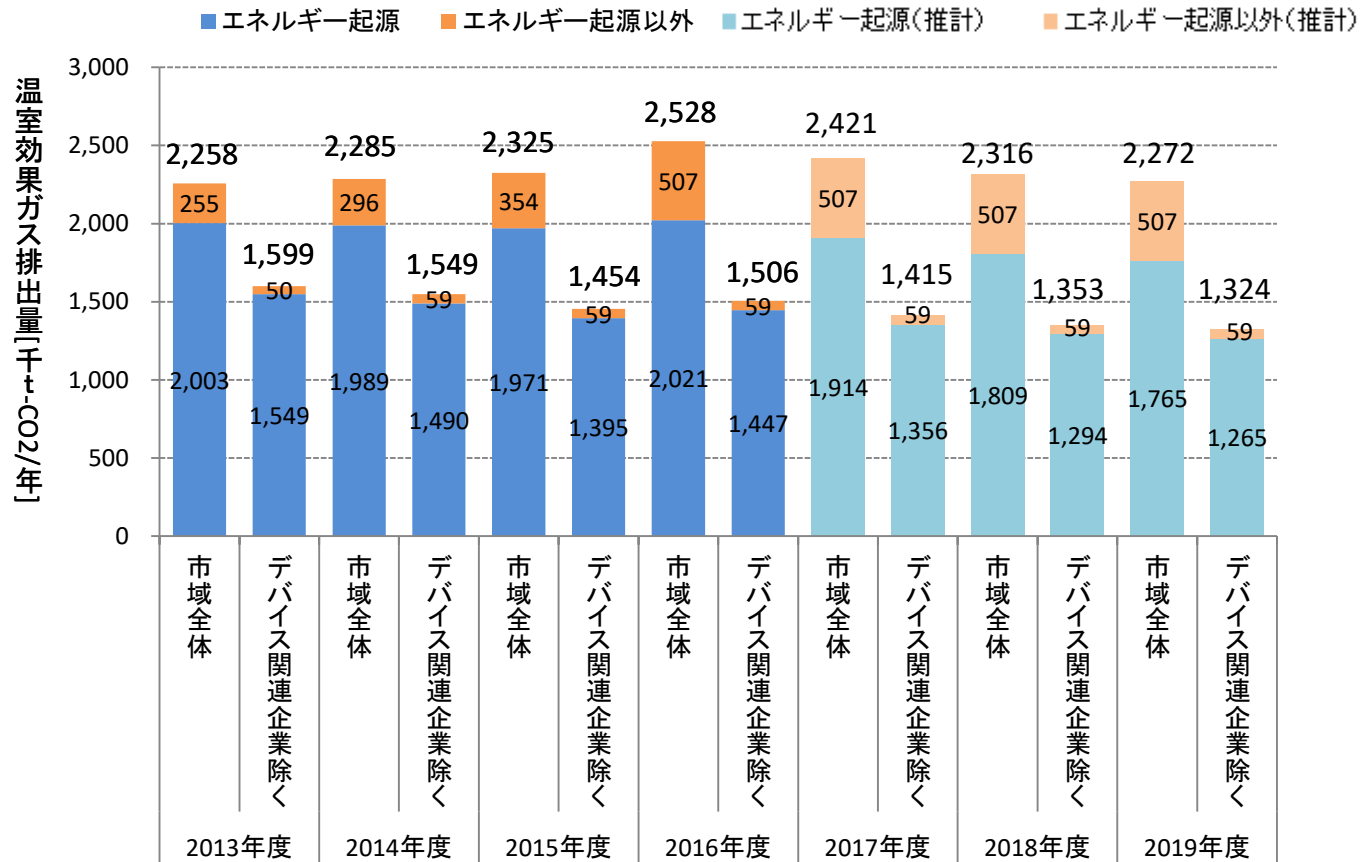
1人1日当たりのごみ総排出量の推移



注：平成24年(2012)年度以降は外国人人口を含む

資料：一般廃棄物処理実態調査結果(環境省)

環境基本計画基礎調査結果（温室効果ガス排出量）



環境基本計画基礎調査結果（生物多様性）

黒瀬川水系(石ヶ瀬橋付近)の生物確認状況の一部(平成24年～令和2年)

⑦石ヶ瀬橋					環境省RL	広島県RDB	外来生物	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	
脊椎動物門	頭甲綱 硬骨魚綱	ヤツメウナギ目	ヤツメウナギ科	スナヤツメ南方種	絶滅危惧Ⅱ種	絶滅危惧Ⅰ種											
		ウナギ目	ウナギ科	ニホンウナギ	絶滅危惧ⅠB種												
		コイ目	コイ科	コイ													
				フナ属													
				アブラボテ		準絶滅危惧	準絶滅危惧		●								
				オイカワ													
				カワムツ													
				タカハヤ													
				モツゴ													
				カマツカ													
		イトモロコ															
		ヌマムツ															
		ムギツク															
		タモロコ															
		ドジョウ科		ドジョウ	準絶滅危惧					●							
				シマドジョウ													
				オオシマドジョウ													
		ナマズ目	ギギ科	ギギ													
			ナマズ科	ナマズ													
			アカザ科	アカザ	絶滅危惧Ⅱ種	準絶滅危惧											
		ダツ目	メダカ科	メダカ	絶滅危惧Ⅱ種	準絶滅危惧		●		●	●	●	●	●			
		スズキ目	サンフィッシュ	ブルーギル			○			●							
				オオクチバス			○										
節足動物門	軟甲綱	ヨコエビ目	マミズヨコエビ科	フロリダマミズヨコエビ			○						●	●	●	●	
			ヨコエビ科	ニッポンヨコエビ					●	●	●	●	●	●	●	●	
			ミズムシ科	ミズムシ			要注意種		●	●	●	●	●	●	●	●	
			ヌマエビ科	ミナミヌマエビ					●	●	●	●	●	●	●	●	
				ミソレヌマエビ													
		テナガエビ科		カワリスヌマエビ属													
				テナガエビ													

魚の確認数が増えてきていると言える。

希少種も大事に。

外来種が増えていると言える

環境基準達成率の低い黒瀬川(その他水系も)における水生生物の生息傾向を考察した

- 近年、小魚(カワムツ等)の確認年が増えてきている
- ミナミメダカといった絶滅危惧種も生体確認されている
- 過去に比べ生物が戻ってきたが、外来種も増えている。
- 生活排水対策が引き続き重要
- しかし、「汚い川」のイメージを払拭し、「生物が戻った川」だから汚さず、きれいにしようという啓発にもつなげていきたい



環境基本計画 アンケート調査結果

- 1 市民アンケート
- 2 事業者アンケート

II アンケート結果（市民アンケート）

■ 環境施策の満足度と重要度 見直し領域の主なキーワード

領域I 重点化・見直し領域

不法投棄防止対策の推進

廃棄物の排出抑制と循環的利用の促進

省エネルギーの推進

温室効果ガス排出抑制対策

再生可能エネルギーの導入

領域IV 改善・見直し領域

利用しやすい環境情報の整備と発信

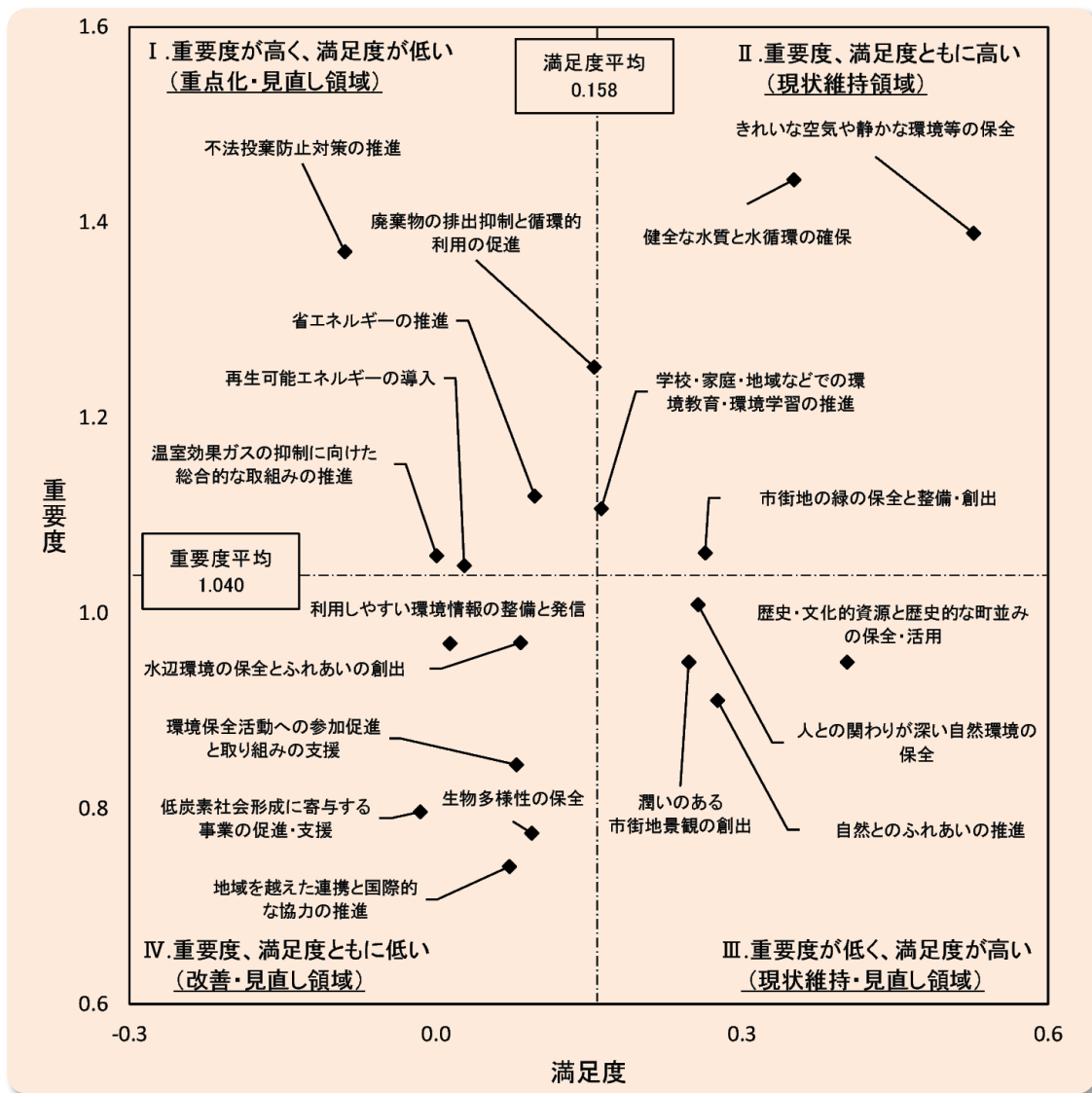
水辺環境の保全とふれあいの創出

環境保全活動への参加促進・支援

低炭素社会形成に寄与する事業の促進・支援

生物多様性の保全

地域を越えた連携と国際的な協力の推進



II アンケート結果（事業者アンケート）

■ 環境施策の満足度と重要度

見直し領域の主なキーワード

領域I 重点化・見直し領域

不法投棄防止対策の推進

水辺環境の保全とふれあいの創出

省エネルギーの推進

領域IV 改善・見直し領域

再生可能性エネルギーの導入

潤いのある市街地景観の創出

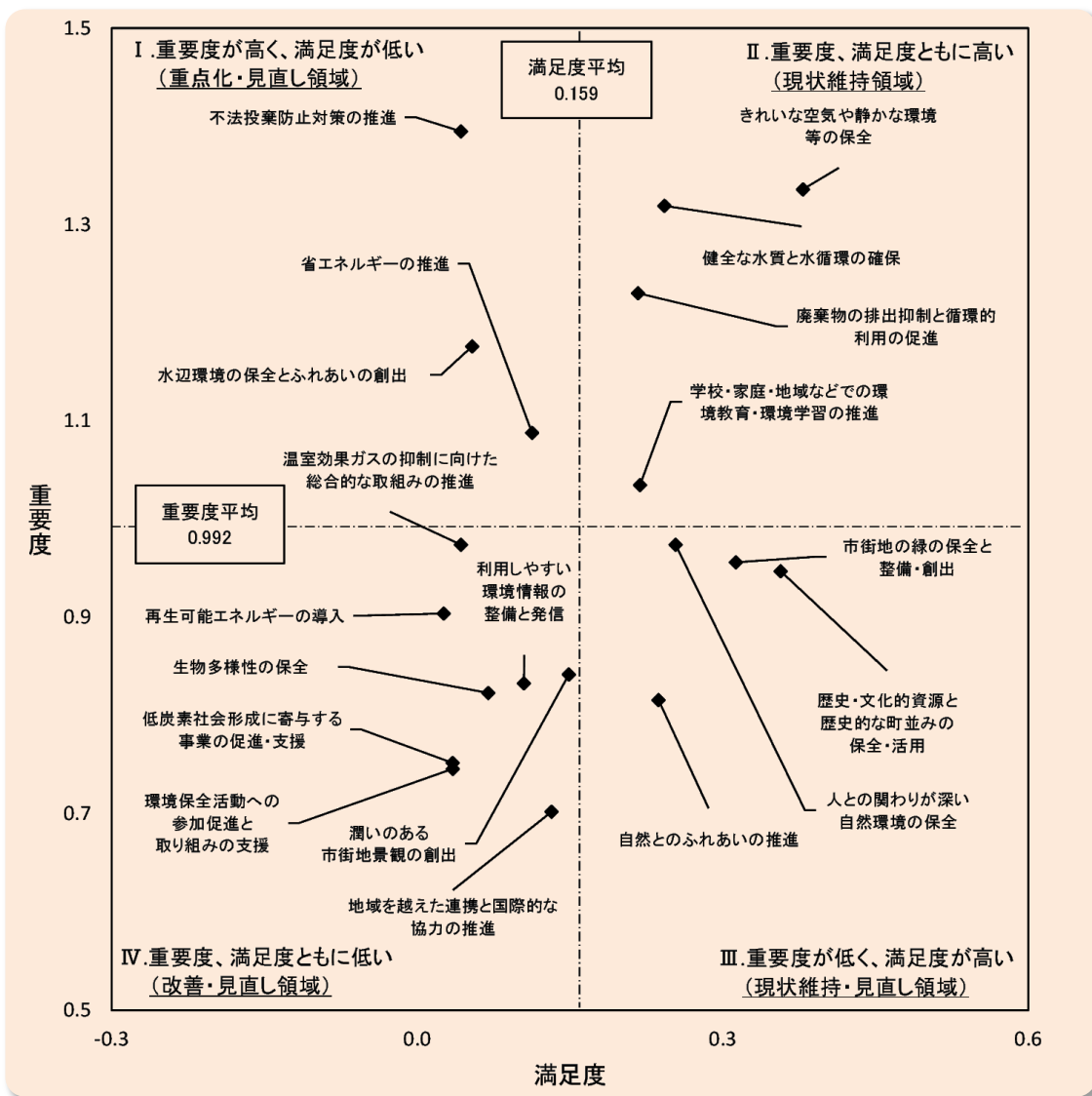
利用しやすい環境情報の整備と発信

生物多様性の保全

低炭素社会形成に寄与する事業の促進・支援






環境保全活動への参加促進・支援

地域を越えた連携と国際的な協力の推進



【たたき台】第2次東広島市環境基本計画の体系

「望ましい環境像」の実現に向け、市・市民・事業者の協働の取り組みとして次の体系に沿って進めていきます。

体系		キーワード
脱炭素社会の形成 (気候変動対策)		省エネルギー対策等の推進 再生可能エネルギーの導入促進 カーボンサイクルの推進 気候変動を見据えた適用策の推進
循環型社会の形成		資源循環サイクルを拡大した社会づくり 適正かつ効率的・安定的な廃棄物処理
地域環境の保全		良好な大気環境の確保 健全な水環境の保全・管理 プラスチックごみの海洋流出防止 地域環境の維持・向上
自然共生型社会の 形成		自然資源の持続可能な利用 生態系の健全な維持管理

次期計画の策定スケジュールについて

項目	年月	R3 3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10 月	11 月	12 月	R4 1月	2月	3月
調査・専門家ヒアリング等		骨子案					素案①		素案②		最終案		策定	
庁内調整・作成作業		[作業期間]												
環境基本計画推進会議		□				□				□				
環境審議会		諮問				骨子				素案	計画案	答申		
議会・パブリックコメント												パブコメ	議会審議	